



第 184 回 パレスチナ問題と西アジア

1 ユダヤ人国家建設の夢

- ・世界中に離散していたユダヤ人は、各地で差別を受けていた。
→19 世紀末以降の（ ）運動により、自らの国家建設を目指すようになっていた。

- ・第一次世界大戦中には（ ）によりイギリスの支持を受けた。
→ユダヤ人による（ ）への入植が本格化した。
- ・第二次世界大戦中には、ナチスによる迫害から逃れるために大量のユダヤ人が移住したことなどから、元から住んでいたアラブ人との対立が激化した。

2 イスラエルの建国と中東戦争

- ・1945 年、アラブ諸国は（ ）を結成して連帯を高めた。
- ・1947 年、国連はユダヤ人に有利な内容で（ ）を決議した。
→アラブ側は拒否したがユダヤ人側は受け入れ、翌 1948 年、建国宣言を出した。

☆（ ）（1948～2023 年現在）
都…（ ） ※国際的には未承認

- ・1948 年、イラク・エジプト・シリアなどアラブ諸国は、即座にイスラエルへ侵入し、（ ）が勃発した。
→アメリカやイギリスの支援もあり、イスラエルの圧倒的勝利となった。
→100 万人を超える（ ）が発生した。



イスラエル建国宣言



戦車に乗るイスラエル兵

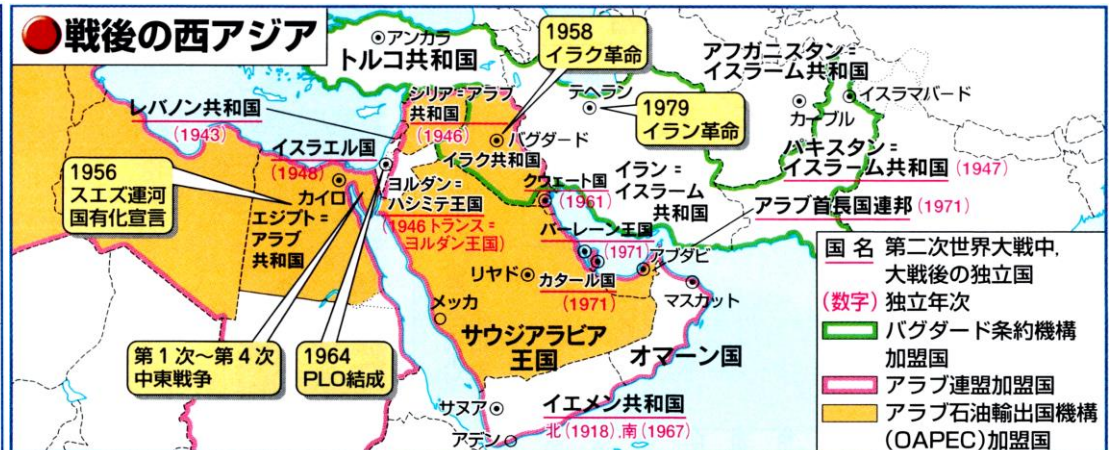
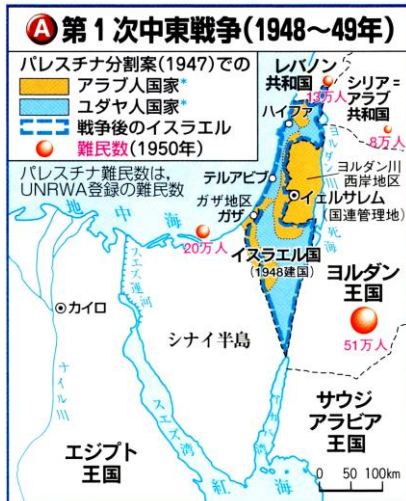


パレスチナ難民(パレスチナ人)

初代首相ベン＝グリオンが、建国宣言を読み上げた。壁には、シオニズム運動の創始者ヘルツルの肖像画が掛けられている。

イスラエルでは、この戦争を独立戦争と呼んでいる。一方アラブ側は、同じ戦争を「大災害」と呼んでいる。

パレスチナ戦争の結果、イスラエルは国連決議以上の土地を占領した。400 万人以上の人々が、現在も難民状態のまま生活している。



3 エジプト革命と西アジア

- ・エジプトは、第一次世界大戦後の 1922 年にイギリスの保護国を脱し、ムハンマド=アリー朝が復活していたが、パレスチナ戦争の敗北などで安定しなかった。
→1952 年、() のナセルを中心に () が起こって王政が倒され、翌 1953 年に共和国が樹立された。



ナギブ
お飾りであり、実権はナセルが握っていた。

☆ () (1953～2023 年現在)

◆ナギブ (在任 1953～1954 年)

- ・自由将校団の団長で、1953 年に初代大統領となったがすぐに失脚した。

◆ () (在任 1954～1970 年)

- ・1956 年、ナセルは、() の建設資金をイギリス・アメリカが凍結した報復として、() を宣言した。
→スエズ運河を支配する () と、植民地独立問題からアフリカ情勢に敏感だったフランスは、これに猛反発した。

- ・1956 年、イギリス・フランス・イスラエルは、突如エジプトへ侵攻した。

※この戦争を () という。

→英仏の侵略行為に対する国際的非難が高まり、英仏は撤退に追い込まれた。

→英仏の影響力は決定的に低下し、ナセルはアラブ世界の英雄となった。

→アラブ世界の統一を求める () が高揚した。



ナセル
20 世紀のアラブ世界に、最も影響を与えた人物であることは間違いない。



アスワン=ハイダム

ナイル川上流に建設された巨大なダム。スエズ戦争後、ソ連の援助により 1971 年に完成した。これ以後、ナイルの洪水はなくなった。



イギリス首相イーデン

保守党出身。スエズ戦争失敗の責任を取り、辞任した。イギリスは、ついにスエズ運河を失ったのである。



支持者に手を振るナセル

アラブ民族主義の高まりにより、エジプトとシリアは 1958 年に合併してアラブ連合共和国となった。しかしエジプト主導の合併にシリアは反発し、1961 年に分裂した。

<イラク>

- ・1958 年、バース党のカセムが () を起こし、共和国となった。

<イラン>

☆ () (1925～1979 年)

- ・1951 年、首相の () は、イギリスが握っていたイランの () を強行したが失敗した。

※各地で起こったこのような動きを資源ナショナリズムという。

- ・1960 年代には国王 () が、アメリカの援助を受けて近代化を行う () を強引に進めた。

→貧富の差が拡大し、国王への不満が高まっていった。



モサデグ首相
イギリスのアングロ=イラン石油会社(現 BP)から、石油の利権を取り戻した。しかしソ連に接近したため、アメリカの支援によるクーデタで失脚した。